

高次脳機能障害者の就労継続支援事業（ナイトサロン）の効果

建木健*¹⁾、建木良子²⁾、鈴木達也¹⁾、佐野祐未子²⁾、藤田さより¹⁾

¹⁾ 聖隷クリストファー大学、²⁾ ワークセンター大きな木

【はじめに】

近年、障害者が働ける場の確保は徐々に進んではきている。しかしながら障害者の就労状況はとりわけ厳しいのが現状である。2009年の独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センターの調査による、地域障害者職業センター利用後6ヵ月の時点での転帰は、就業に結びついたケースが46.4%と約半数であった。就業可能者の支援内容をみると、支援項目数が多いほど就職/復職に結びつきやすい(4種目の場合;80%、3種目の場合;77%)。加えてジョブコーチ支援を含む支援を行った場合、86.2%が就職/復職可能となっており、ジョブコーチ支援の有効性が実証されている(復職後の離職率は8%)。

厚生労働省の調査によると事業所規模30人以上の事業所の離職率は1.8%(2011年度)1.96%(2009年)と低いのに対して高次脳機能障害者のジョブコーチ支援ありでの復職後の離職率である8%から考えても高次脳機能障害者の就労継続の難しさが明らかである。

本研究においては、高次脳機能障害への職場定着率の向上を目的に支援方法の拡充とその有効性を明らかにすることを目的とする。

【方法】

高次脳機能障害を呈し、就労もしくは就労希望の方を対象に「相談ができる場（ナイトサロン）」を設定し、脳外傷友の会しずおか、ワークセンター大きな木のホームページなどを通して参加者を募った。2011年9月より2012年2月までの期間、月2回の90分(18:30~20:00)喫茶店を借りて実施した。尚、作業療法士もしくはジョブコーチがコーディネーターとして参加した。

効果測定にあたり、各回の開始前後で気分抑うつスケール(以下 POMS)および、開催より中間(7回目)と最終(12回目)でアンケートを実施した。

【実施にあたってのコンセプト】

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センターの調査にもあるように、より多くの支援により職場定着が促進されるという結果があるが、ジョブコーチ支援を直接的支援とするならばナイトサロンは間接的支援として職場の悩みが相談でき、思いを受け止める場所として気兼ねなく自由に参加できる場に成り得るだろう。(図1)そしてピアカウンセリングの要素も大きい。開催時間は勤務後からでも参加

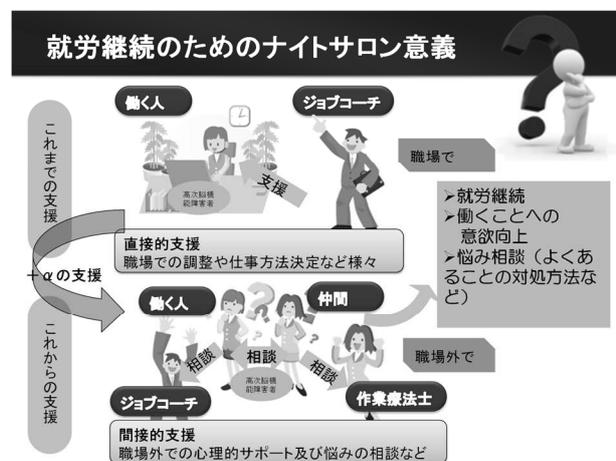


図1 就労継続のためのナイトサロンの意義

しやすい時間帯に設定した。また、テーマは決めず参加者のフリートーク形式とし、コーディネーターは進行の補正は行うものの、主に傾聴する態度で臨んだ。

【結果】

実施 12 回、述べ 54 名（1 回平均 4.5 名）の参加であった。開催ごとの POMS の結果によると、「緊張－不安」、「抑うつ－落ち込み」、「怒り－敵意」、「疲労」、「混乱」での項目では低下、「活気」は向上するなど、ポジティブな反応を示した。（図 2）統計処理には SPSS を用いて Wilcoxon の符号付き順位検定を実施した結果、ナイトサロン開始直前と直後では「活気」で有意な差が認められた。（ $P < 0.05$ ）

また、実施 7 回目（中間）と 12 回目（最終）においてアンケート調査をおこなった。7 回目のアンケート結果（表 1）より、それぞれの質問に対しては 10 段階リカート法をもちいた。実施時間の適正については 8.8、実施回数の適正 9.4、実施場所の適正 9.2、進行の適正 7.8、生活への役立ち度 8.6、仕事への役立ち度 8.6、必要性 9.4 という結果であり、概ねナイトサロン実施にあたっての満足感を得ており、復職、就労支援に対して効果を示していることが推測される。また 12 回目（最終）においては、質問項目を増やし調査を行った。その結果、（表 2）実施時間の適正については 9.2、実施回数の適正 9、実施場所の適正 8.8、進行の適正 9、生活への役立ち度 8.2、仕事への役立ち度 8.2、必要性 9、満足度 9、学習度 7.6、内省度 7.4、他地域での必要度 8.6、1 回の適性人数 6 名、参加費の妥当金額は 400 円（今回は無料）であった。

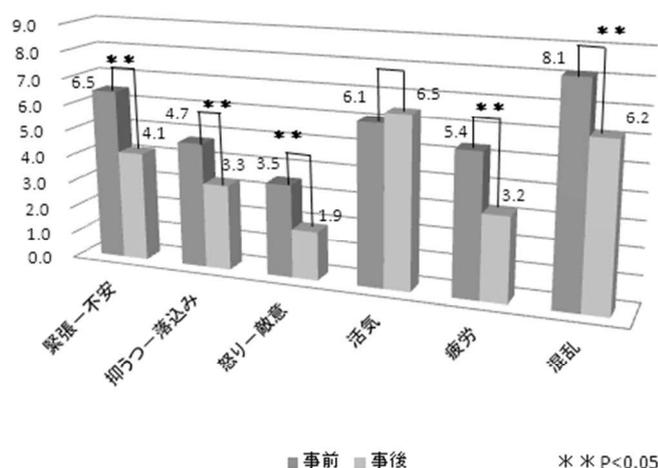


図 2 POMS の結果（各回のナイトサロン参加前後の比較）

◇T-A: 緊張－不安 (Tension-Anxiety)

「気がはりつめる」「不安だ」などの 9 項目から構成されています。得点が高い場合、より緊張していることを示します。

◇D: 抑うつ－落ち込み (Depression-Dejection)

「ゆううつだ」などの 15 項目から構成されています。得点が高い場合、より自信を喪失していることを示します。

◇A-H: 怒り－敵意 (Anger-Hostility)

「怒る」「すぐけんかしたくなる」などの 12 項目から構成されています。得点が高い場合、より怒りを感じていることを示します。

◇V: 活気 (Vigor)

「生き生きする」などの 8 項目から構成されています。この項目は他の 5 尺度とは異なりポジティブな項目であるため、この得点が低いと活気が失われていることを示唆しています。

◇F: 疲労 (Fatigue)

「ぐったりする」などの 7 項目から構成されています。得点が高い場合、より疲労感を感じていることを示します。

◇C: 混乱 (Confusion)

「頭が混乱する」などの 7 項目から構成されています。得点が高い場合、より混乱し、考えがまとまらないであることを示します。

表1 アンケート調査結果（中間）

	実施時間	実施回数	実施場所	進行	生活への役立ち度	仕事への役立ち度	必要性
A	6	8	8	8	6	8	8
B	8	9	10	9	9	10	9
C	10	10	8	7	10	10	10
D	10	10	10	5	10	5	10
E	10	10	10	10	10	10	10
平均	8.8	9.4	9.2	7.8	9	8.6	9.4

表2 アンケート調査結果（最終）

	実施時間	実施回数	実施場所	進行	生活への役立ち度	仕事への役立ち度	必要性	満足度	学習度	内省度	地区開催の必要性	適性人数(名)	参加費(円)
F	7	7	5	7	6	6	6	6	6	6	8	5	300
G	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	5	500
H	10	10	10	10	10	10	10	9	5	5	5	7	500
I	9	8	9	8	5	5	9	7.5	7	6	10	5	200
J	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	8	500
平均	9.2	9	8.8	9	8.2	8.2	9	8.5	7.6	7.4	8.6	6	400

また、アンケートの記述については、「静岡市でも開催してほしい」「同じ障害者がもっと利用すればよい」などの意見がある反面、「焦燥感に駆られる」「身の置き場が無くなる」など周囲が頑張っている状況に励まされながらも、自己の状況との比較や振り返りのなかでネガティブな感情も表れている意見もあった。（表3）

【考察】

POMSの最終結果より、「活気」についてはナイトサロン参加直前、直後との有意な差は認められなかった。「活気」とは元気さや活力を示すとされているが、一日の仕事などを終えてからナイトサロンへの参加していることを考慮すると「活気」について維持されており、ナイトサロンの開催時間が適切であったといえるのではないかと考えられる。

他の項目については、同じ障害を持っているもの同士、就労ということをテーマに会話をすることで、悩みを打ち明け、共感することができ、「緊張－不安」、「抑うつ－落ち込み」、「怒り－敵意」、「疲労」、「混乱」といった項目で低下を示したと考えられる。12回開催されたナイトサロンでは固定メンバーではなく、新しい参加者があったり都合により参加できなかつたりとメンバーは常に同じでは無かったものの、徐々に顔なじみの関係、馴染みの場所となっていく。支援者－参加者関係や、参加者同士の関係も初対面から1時間半の間共通の話題で話をする中で、互いが受け止め合い、理解し、理解される場として意識化され「居場所」が形成されたと考えられる。これはアンケート結果からも心理検査同様に、参加者は心理的不安や負担を軽減でき、次へのステップとなる活力を得ていることがわかった。その要因としては、同じ障害を持ち、同じ境遇にある立場という側面からも共感性が高かったり、語り手の話を通して、聴き手も追体験したり自己の行動の振り返りができるなど、参加者それぞれが自分自身を冷静に見つめ直す機会になっているようであった。またアンケート結果によると、語りの中から自分自身の強みと弱みを再確認する機会もあり、エンパワーメントを再確認する機会も得ることがあった。

本研究において実施期間が短期間（6ヶ月）であり、職場定着における直接的な効果を検証することは困難であるが、POMSやアンケートの結果より高次脳機能障害をお持ちの方への、集える場の提供は重要であることが証明できた。今後このような活動が地域のなかで根付いて行くことを期待したい。そのためには、更なる継続と効果を明確に示していく必要があると考える。

表3 アンケート調査結果記述（中間及び最終）

ナイトサロン実施時間について適切だと思いますか
ちょうど良い時間だと思う
長く話をしていたい
仕事が終わってからでも出来るから
もっと長くても良い
もっとやりたかったので時間が長いことにこしたことはない
時間に無理がなくていいです
ナイトサロン実施回数(月2回)について適切だと思いますか
静かで良い場所
もっと多い方がよい
静岡から来ているから
いろいろと出来事を話せます
ナイトサロンの実施場所についてどう思いますか
静かなスペースでお互いに共感できてよいと思う
場所が遠い
落ち着いた雰囲気は良いと思う
浜松西インターに近いから
不満はないです
バス停へも歩いていけるので
リラックスできます
ナイトサロンの進行についてどう思いますか
今後のためになると思う
硬くない感じで良いと思います
テーマを持って進行しているからそこそこいいと思う
色々と勉強になる
建木先生が先導していただけてるのは大変ありがたいと思います
その都度気づき勉強になります
ナイトサロンがあなたにとって役に立っていると思いますか
働く上で実際に問題となっていることが明確に見えやすい
人と接するトレーニングとしてよいと思います
悩みなどを話して解消するときがあるから
前向きになれる
いろいろな意見がきけるから
なかなか役立てられていない。焦燥感にさいなまれる
仕事でいろいろあることを予測できて勉強になる
働くこと、仕事に就くことに対してナイトサロンは役に立っていると思いますか
仕事をする上でいろいろなヒントが得やすいと思う
日常生活場面で、人との関わり合いがほとんどだと思うので
先生からの助言があるから
感情コントロールが安定し始めたこと
みんなの話を聞いて参考になる
なかなか役立てられていない。焦燥感にさいなまれる
前向きになれる
ナイトサロンを継続して実施していく必要性はあると思いますか
我々にとって個別にこういう場をなかなか持てないので
悩みや相談の場はないから
毎回にながら勉強になる
安心できる
単独、身の置き場が全く見当たらなくなってしまうこともあるのでは？
必要だと思います
あなたにとってナイトサロンの満足度はどれくらいですか
とても勉強になります
ナイトサロンで話をする事で参加者から学ぶことはありますか
あるはずだし、いっぱいあると思う。なのになかなか学べない。
すごいです
ナイトサロンを通して自分を見つめ直し、知るきっかけになっていますか
あるはずだし、いっぱいあると思う。なのになかなか学べない。
ナイトサロンで出てきた悩みのお話でも、改めて経験してしまうことがある
ナイトサロンは他の地域でも開催した方が良くと思いますか
いい事はどんどんやった方がいいと思います
1回の適切な参加人数は何人だと思いますか？
多くても時間内で話ができないと思います
ナイトサロンに参加してあなたの変化についてお聞かせください
他の人といろいろな話がでるようになった
実際に仕事をして困っていることを共感する場として、同じ視点から共感できる仲間からの意見交換の場として、他人の価値観を知るきっかけになっていると思います。
就労に対して前向きになると同時に、仕事につかなくてはならないと意識する。
その他ご意見または感想
静岡市で開催できたらいいなと思う
仕事をするようになってからもいろいろな話をしたり聞いたりしてみたいので今後も続けてほしい
名簿があったほうがよい
同じ障害者の方がもっと利用すればいいと思う